

東京与論会 役員会議事録(抄録)

日時；平成12年2月6日(日)、17:00～18:00

議 題；平成12年度活動方針について

1)、2) 省略

3) 財政基盤を整えるための方策について

与論会の活動、運営の実情について

当会の運営費用は年一度の総会の会費及び寄付金と与論町の助成金10万円で賄っている。総会の会費はほぼ当日の実費として消費します。従って1年間の運営費は当日の寄付金で確保しているのが実情である。

そのようなことから総会の折りには会長以下の役員の方々には役職及び実績等に応じて金額を指定し、半ば義務付けで負担して戴きながら、一般の会員にもご寄付の無心を強要するケースがあり、お金集めの総会かとの誤解や不評を戴くことがしばしば起こっている。このような資金集めは本会の衰退を招くことになると危惧するものである。

一方、当会の会長以下の役員が会を代表して他の郷友会や与論の行事へ参加するとき、必要な交通費および宿泊費は各自の負担である。^{こころざし}志の高い諸先輩方は損得を厭わず当たり前のことと処して来られたが、昨今の世情は質素儉約を必修とする時代になって来た。従来のような方式で当会の運営を次代へ継承することは困難な事であると思われる。支出の大幅な抑制と、会の役割を担う方々への適正な必要費用の補填は会の存続上必要な対策として取り組まなくてはならない。

東京与論会は首都東京にあることから、故郷与論からの代表団の上京来航が多い。例えば、

- 1) 与論町の役場、議会、農協、観光協会その他の陳情団、視察団等
- 2) 与論三小学校と東十条小学校との交流行事及び付帯、派生行事
- 3) 学生、青年の体育行事代表団及び交流団等
- 4) 学術、文化、民俗芸能公演代表団
- 5) 郷土与論の記念行事への協力要請団等

このような様々な事由で上京される代表団は、必ず東京与論会の会長宛てに連絡が入ります。この上京団の目的や要請に呼応しての様々な設営及び動員は当会の境遇的な役割であり、当然ながら多大な経費支出を余儀なくされております。

財政基盤確立のための方策について～支援賛助会の設置

こうした状況を背景として運営費用の内一定額については安定した収入を確保する必要があり、その調達方法として次の要領で会員各位へご協力を仰ぐこととし、出席役員各位の賛同を戴いた。

調達金額～100万円

使途(1)～総会会場費及び年間運営費の一部として50万円

使途(2)～会を代表して行動する人の旅費の一部として50万円

調達方法と資金管理

- 1) 有志会員で『東京与論会支援賛助会』の名称で、年会費制とし、年会費1万円とする。
- 2) 資金の管理に当たっては、東京与論会の会計とは別会計とする。
- 3) 募金活動、会計実務は東京与論会事務局が担う。
- 4) 会費の納入は郵便振り込みによる。

東京与論会の支出について従来の恒例、慣例による支出を見直し、質素節約を旨としたガイドラインを設ける。

以下、省略